

豊総男女共同参画推進懇話会活動報告

 Vol.6
 豊川総合用水
 土地改良区

Vol.6



令和8年1月に第6回豊総男女共同参画推進懇話会を出張開催しました！

今回の訪問先である那須野ヶ原土地改良区連合は、小水力発電を始めとする再生可能エネルギーの先進的利活用にも取り組んでおり、それらの取り組みには、女性役員の多大な尽力が関与していることは広く知られている。また、複数の女性役員が早期登用されていることより、女性役員の活動実績や女性登用による組織内の変化等に関する情報収集を、今回の目的としている。

那須野ヶ原地域は、栃木県の北部に位置する複合扇状地で、かつては水の乏しい原野だった。その対策として、1885 年に日本三大疏水の 1 つである那須疏水が開削され、その後、国営事業(1967～1995 年)により、現在の那須野ヶ原用水が完成した。本連合は、国営事業の完了に伴い、土地改良施設の管理および水の管理を受託している。

訪問先の女性役員



那須野ヶ原土地改良区連合への聞き取り内容

①女性理事の役割について、どう考えているか？



当該連合の女性理事は組合員でない農業者のため、会議への出席以外には地区内の現場業務はほぼ無いが、連合としての業務（水管理システムの操作、発電所の点検作業等）には従事している。一方で、男女という性別ではなく、個性（経験、資質）を生かした自発的社会活動を、事務局は尊重し、支援している。その結果、現状では各人の自発的活動の中で、土地改良区の多面的機能を広報している。たとえば西岡理事は、もともと米作りを体験する「農泊」を営んでおり、理事就任後の研修で学んだことを活かして、水管理の勉強コースも体験に盛り込んでいる。この活動は、土地改良区が存在とその働きや役割を広く知ってもらうことになり、農家と非農家、あるいは農村と都市を繋ぐことになるのではないかと。

理事の自発的な活動を尊重し、それをサポートすることが事務局の役割との考えは、「個性は性差をこえる」ことの実践である。

②女性役員が登用されたことによる組織の変化は？



女性が登用されたことで、職員は役員への相談がしやすくなった。特に監事は、所属土地改良区の事務局長を務めた経験があり、その知識を活かして、会計・経理担当の職員に指摘や意見、指導を行っている。

また、人事面にも変化がある。たとえば、現場作業に伴い比較的男性職員が多い管理業務部署に、事務業務専任であった女性職員が異動をした。那須野ヶ原地域の土地改良区は、元々女性職員が多いことに加え、組合員の高齢化対策もあり、管理施設の電動化や安全管理の見直し、装具の軽量化などが進んでいるため、困難なく男性と共に働いている。

個人の適性や土地改良区の実務で培った経験が、組織の性格や運営に多様性や柔軟性という変化をもたらしている。

③女性活躍に向けた今後の取り組みは？



人材育成、土地改良区サポーター集団育成のため、「なすっばらえすぺり倶楽部」※を設置。「那須野ヶ原の大地から、命と暮らしの希望を育む循環の場」になることを願って名付けた。

意思決定の場において少数派が影響力を持つのは 30%以上といわれており、政府目標もこの考えに立って設定されている。当該連合としても、理事に占める女性の割合 30%（現在は 12%）以上を目指す中で、「なすっばらえすぺり倶楽部」は、意欲がある女性を組織が求める理事として人材育成する場にもしていきたいという。現在は、様々な立場の知恵を得られるよう、性別、年齢など多様な構成員を選んでいるところだ。

※「なすっばら」+「えすぺり」（スペイン語の「esperanza（希望）」や「esperar（待つ、祈る）」に由来

女性活躍の継続的発展には、人材育成がどのフィールドにおいても不可欠であると認識した。



参加者の感想 当懇話会の会員に書いてもらった今回の感想を紹介します。

功刀会長

男女ではなく、各自が個性を生かし責任を持って活動している「男女共同参画のその先」を研修できた一方で、社会から多様な偏見を払拭する困難さを改めて認識した。女性役員主導による、広報啓発のための先進的な「倶楽部」設置が、農家非農家を繋ぎ人材育成の場にもなると期待し、豊総での実現可能性は如何なものか？



渡邊会員

那須野ヶ原土地改良区連合の星野専務理事の、性別を個性として尊重する考え方に感銘を受けた。男女同数の職員体制や、性別に関係なく現場で協力し合う働き方が根付いている。さらに次世代人材を育てる団体設立構想にも驚いた。多様性を力に変える姿勢は、地域の未来に大きな希望を与える。

杉本会員

星野専務理事の言葉の中に、男女は個性だという考えに改めて気付かされ、それぞれの持つ仕事の役割や協力できる分野は、職員と共に行動できているようで素晴らしいと思った。他の女性理事の方々も、地域内外の広報活動にもそれぞれ活躍されていて、私自身が何に関われるかを追求していこうと思った。

柴田会員

女性職員も多く、役員さんも意見や質問がしやすい環境が出来ているようだ。役員さんも、水の大切さを通して未来ある子供たちに食育教育をしないと、みんながそれに向かってやれる人がやれることをやっている。

今やれることは？と考えたとき、まずは色々なことを学びスキルアップを目指したい。

山内会員

那須野ヶ原土地改良区連合の参加人数は、男性3名、女性9名、女性の多さに驚いた。私自身、環境に適合し繁栄していく農業を目指して従事しているが、どの地域においても人材育成が重要であることを学び、将来どのように命(食)を継いでいくのか考える機会となった。1人1人が自由に選択し制限されない社会に！

神田会員

那須野ヶ原土地改良区連合の研修を終えて、1番印象に残ったことは、農泊である。地域外の人々に魅力を伝えるために、お客様を実際に水源に連れていき、水と田との関係を体感してもらうことだ。新聞に連載するなど寄稿活動を知り感銘を受けた。女性役員の方が、組織の柔軟性や発信力を高めている点が印象的だ。

菊地会員

日本社会で女性が活躍しにくい背景には、社会の仕組みが男性中心に築かれてきた歴史がある。そのため、女性活躍のロールモデルが少ない状況が続いてきた。那須野ヶ原土地改良区連合で、いきいきと活躍する女性たちはロールモデルの好例である。性別を問わず、誰もが能力を発揮できる社会を実現したいものだ。

林会員

今回出席してくださった皆さんは、役員の職務で得た知識や経験を土地改良以外の自身の活動に活かしているが、今に至るまでは役員同士でも疑問を投げかけ合い、不安を払拭されてきたのだと思う。職員として、役職員同士、忌憚なく意見や疑問を投げかけ合える関係づくりをサポートすることも大切だと思った。

